

卒業を迎えて

看護学科第44期生 丸山 優希

早いもので熊谷市医師会看護専門学校に入学し3年が経とうとしています。思い返すと様々なことがありました。准看護師免許を取得して入学したものの、より深い知識が求められ、苦勞した面もありました。

また、私は家庭があり、子育てと仕事と学業の両立をすることが課題でありましたが、私と同じ境遇のクラスメイトも多く、一緒に切磋琢磨しながら乗り越える事が出来たと思います。先生方には、時には厳しく、時には優しく看護師になるという夢を全力でサポートしていただきました。

学校生活では、座学だけでなく、公園に行きクラスメイトとの交流を深める授業や、学校の周辺でスタンプラリーを行う企画など楽しく学べる機会も多くありました。中でも、毎年恒例の博愛祭では、学生全員が協力して、看護学校ならではのイベントやバザー等を行い、地域の方々との交流を深める事ができ、とてもいい経験になりました。

准看護学校に在籍時は、臨地に実習に行く事が出来ず、経験不足を感じていましたが、この学校では実習前から看護過程の展開について経験豊富な先生方に一から指導をしていただき、不安なく臨地実習に臨むことができました。実習中は夜勤をしながら課題に取り組み、受け持ち患者様の疾患の理解をするための学習など、大変なこともありました。しかし、得られたものも多く、疾患だけでなく傾聴やコミュニケーションの取り方など患者様への個別性看護を学ぶことができたため、卒業後、臨床に活かすことのできるスキルが身についたと思っています。

卒業まで楽しいこと、つらいこと、色々あった3年間でしたが、多くの仲間や先生方に支えられながら過ごした時間は、自分自身の大きな財産となったと感じています。

正看護師へ向けたステップアップを行う過程としてこの学校を選んで本当によかったと思います。

